

# 平成 31 年度事業報告

(自 平成 31 年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日 )

## 公益財団法人内子町国際交流協会

### <基本方針>

内子町国際交流協会は、国際的な視野と実践力を備えた人材を育成し、もって活力ある地域社会の形成に寄与することを使命として、20 年以上にわたり活動を続けてきた。今年度も事業の柱である「青少年海外派遣事業」をはじめ、以下に記す事業を効果的に実施する。

### I. 交流促進事業

#### 1 意識啓発・情報発信事業

##### (1) 機関紙「ゆうていあ」の発行

協会が実施する各種交流事業の紹介や活動状況を町民に P R し、国際交流・国際理解に対する認識を高めるための記事を内子町の広報紙「広報うちこ」へ掲載した。

発行時期：毎月 1 回（12 回）

規 格：広報うちこ（A4 版）

##### (2) ウェブサイト運営

インターネットにより、国際交流等に関する情報を収集するとともに、ホームページを通して当協会の活動を広く国内外に発信した。（<http://utia.jp>）

また、Facebook を活用し、イベント参加の呼びかけや活動報告を行った。

##### (3) 先進地視察研修

持続可能な協会づくりのため、先進的な活動事例を学ぶとともに、各種団体との交流ネットワークの形成を図った。

#### 2 各種講座運営事業

##### (1) 国際理解講座（一般向け）

社会人を対象に、異文化理解の機会として、海外の文化や習慣についてわかりやすく紹介する講座を実施した。

- ・ サマンサさんの国際理解講座

開催日時：10 月 18 日（金）午後 7 時～9 時 30 分

開催場所：内子自治センター

内 容：アフリカ系アメリカ人の伝統的な料理とその文化についての紹介

参加者数：24 名

- ・ キリアンさんの国際理解講座

開催日時：2 月 21 日（金）午後 7 時～9 時 30 分

開催場所：内子自治センター

内 容：アイルランドの伝統的な行事や文化についての紹介

参加者数：21 名

## (2) 外国語講座

ア 高校生以上を対象に、英語 3 講座、ドイツ語 2 講座を毎週開講した。  
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月は全講座休講)

### 【英語】

- ・「英語の世界へようこそ」  
内容：英語を基本からもう一度学びたい人向けの講座。平均受講者数：6 名
- ・「英語で伝えましょう」  
内容：中学校で習った英語で、身近なことを表現する。平均受講者数：7 名
- ・「Let's talk about the world.」  
内容：世界のさまざまな話題について英語で話す。平均受講者数：5 名

### 【ドイツ語】

- ・「Guten Tag!からはじめるドイツ語」  
内容：初めてドイツ語を学ぶ人向けの講座。平均受講者数：4 名
- ・「もっと！ドイツ語を学びましょう」  
内容：初級文法を一通り学習した人向けの講座。平均受講者数：3 名

イ 小学生（1 年生～6 年生）を対象に、10 月から月 1 回「英語であそぼう！」を開講し、ゲームや工作などを通して英語に親しむとともに、感謝祭やイースターなどといった海外の文化や習慣を学ぶ機会をつくった。

開催回数：計 5 回（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月は休講）

開催場所：町内各自治センター

受講者数：各回 15 名程度

## (3) 英語絵本多読プロジェクト

英語絵本を町内中学校の図書室に設置し、生徒たちが気軽に親しめる環境を提供し、多くの英語に触れられる機会をつくっている。

## 3 交流イベント・体験事業

### (1) 国際交流ボランティア活動の推進事業

地域の国際交流の担い手・人材を養成し、活躍の場を広げるための事業を行った。主に以下のとおりの事業を実施した。

#### ア ホストファミリー養成・登録

海外からの訪問者などのホームステイを受け入れることで、異文化理解の促進や「おもてなし」の心の育成を図る。

#### イ イベント等ボランティアの登録

①翻訳・通訳ボランティア②イベントボランティア③文化ボランティアの登録を推進し、活躍の機会を提供することで、町民の国際交流に対する意識啓発を図る。

#### ウ 在住外国人支援のための「日本語広場（日本語講師養成）」

地域在住外国人の支援を目的として、日本語学習を希望する外国人を対象に、毎週土曜日にボランティア日本語講師による日本語広場を開講した。

開催日時：毎週土曜日 10 時～11 時 30 分

開催場所：内子自治センター

受講者数：4 名

## エ 海外派遣事業 OB 会の運営事業（ビッグハンズ）

青少年海外派遣事業への参加経験を生かし、内子町のまちづくりに参画してもらうことを目的として、OB 会（ビッグハンズ）への登録、つながりを大切に交流活動を推進した。

8月7日ビッグハンズメンバーを中心に43名が笹踊りに参加し、交流会を行った。

## (2) 「国際交流の集い」事業

大人から子どもまで楽しみながら異文化に触れる機会を提供する目的をもって、以下の行事を実施した。

### ア 内子町子どもフェスティバル出展

プランナーや国際交流員（CIR）・外国語指導助手（ALT）合わせて12名で、フェイスペインティングを実施した。

### イ 国際交流イベント開催

国際交流員（CIR）・外国語指導助手（ALT）、プランナーの企画により、交流イベントを開催した。

- ・ ドイツフェスタ開催協力

プランナーや青少年海外派遣 OB・OG 合わせて16名でステージでの出し物、出展ブースへの参加を行った。

- ・ 地域のお祭りへブース出展

「いかざき大凧合戦」に参加し、オリジナルの大凧で協会の PR を行った。また、「小田の郷ふるさとまつり」と「大瀬農業祭柿まつり」にブースを出展し、フェイスペイントや活動紹介を行い、協会の周知を図るとともに、町民が気軽に異文化に触れる機会を提供した。

### ウ ALT 交流会主催

普段教育現場を中心に活動している ALT と一般町民が触れ合う場として、様々なイベントに参加し、交流を図った。また、ALT が内子町の文化に触れる場を提供した。

- ・ ALT（タニア・カトビ）フェアウェルパーティー

7月5日（金）内子自治センター 56名参加

- ・ ALT（キリアン・バリー）ウェルカムパーティー

8月21日（水）内子自治センター 47名参加

- ・ 第15回内子町駅伝大会参加

ALT と町民有志で「内子町国際交流協会チーム」として駅伝大会に参加し、協会の PR を行うと共に、駅伝参加者との交流を図った。

1月19日（日）選手7名、補欠2名、監督1名

## (3) ホームステイ受け入れ事業

ドイツ・ローテンブルク市からの訪問団をはじめとするホームステイ受け入れ要請に対し、ホストファミリーの紹介や交流イベント企画といった事業を行う。

今年度は受け入れなし。

#### 4 翻訳・通訳事業

行政の観光担当課における各国語パンフレット作成や公用文書等の翻訳、姉妹都市交流行事における通訳等の言語サポートを行った。

#### 5 内子町中学校英語弁論大会実施事業

内子町教育委員会学校教育課と連携し、町内中学生を対象に英語弁論大会を開催し、弁論指導、審査等の協力等を行った。

9月27日（金）内子座 町内中学生約150名参加

## II. 助成事業

### 1 青少年海外派遣事業

中学・高校生を対象に姉妹都市であるドイツ・ローテンブルク市で研修を行うための費用として、渡航費等経費の1/3以内を助成するとともに、青少年海外派遣事業利子補給金制度も実施した。ローテンブルク市の協力の下、現地では各家庭でホームステイし、ローテンブルク市の町並保存や環境保護についての学習、学校訪問や警察署の見学、森林の中でのアスレチックやTシャツ作りなどを体験した。また、第2訪問地であるスイスのジュネーブでは、国際赤十字博物館を訪問し、世界平和や国際協力について学んだ。派遣にあたっては、事前研修を実施し、研修効果を高めるよう努めた。

実施期間：7月19日（金）～7月29日（月）（11日間）※搭乗予定便の欠航により1日延泊

派遣先：ドイツ・ローテンブルク市、スイス・ジュネーブ

対象：町内の中学生9名

### 2 ローテンブルク市等との文化交流助成事業

ドイツ・ローテンブルク市との姉妹都市盟約締結を機に新設した制度で、工芸や伝統芸能など、内子町の文化の担い手がローテンブルク市等において交流するための費用の一部（1/2以内かつ1人15万円以内）を助成する。

今年度は申請なし。

### 3 町民の海外研修助成事業

町民が海外で研修活動を行うための費用の一部（1/2以内かつ1人10万円以内）を助成する。

今年度は申請なし。

### 4 町民の国際交流に関する主体的な取組に対する助成事業

町内の国際理解や国際交流に関する主体的な取組に対し、その活動に要する費用の一部（1/2以内かつ5万円以内）を助成する。

今年度は申請なし。

### Ⅲ. 法人管理

#### 1 寄付金

##### (1) 寄付の依頼

協会の運営および諸活動に対し、町内各企業、団体および町民に寄付の依頼を行った。

平成 31 年度 寄付件数 5 件 寄付金収入 2,293,000 円

##### (2) 賛助会員制度への加入促進

協会の活動に賛同する個人および団体による賛助会員制度を平成 28 年度に創設した。パンフレット、広報、ホームページ、Facebook 等の活用により、会員拡大に努めた。

平成 31 年度 賛助会員数 個人 71 件、法人 8 件 賛助会費収入 244,000 円

#### 2 理事会・評議員会

月 日	会 議	主 な 議 案	場 所
4 月 25 日	第 1 回理事会	海外研修補助事業審査委員の選任について	書面決議
6 月 11 日	第 2 回理事会	事業報告・決算審議 定時評議員会の招集について 特定資産新規運用銘柄の承認について	内子自治センター
6 月 26 日	定時評議員会	事業報告・決算審議 理事の選任について 評議員の選任について	内子自治センター
6 月 26 日	第 3 回理事会	代表理事の選定について 特定資産運用管理委員の選任について	内子自治センター
12 月 11 日	第 4 回理事会	特定資産の新規運用銘柄の承認について	内子自治センター
3 月 18 日	第 5 回理事会	令和 2 年度特定資産運用方針案および計画案 について 令和 2 年度事業計画案について 令和 2 年度収支予算案について	書面決議

#### 3 特定資産運用管理委員会

月 日	会 議 内 容	出 席 者	場 所
5 月 30 日	投資信託の新規運用銘柄 について	理事長、特定資産運用管理委員 2 名、 事務局 3 名	内子分庁
12 月 11 日	投資信託の新規運用銘柄 について	理事長、特定資産運用管理委員 5 名、 事務局 4 名	内子自治センター

#### 4 研修会・会議等への出席

9月19日 2019年度日本語学習支援団体による意見交換会

12月4日 令和元年度第2回外国人生活支援ネットワーク会議

1月29日 令和元年度地域国際交流担当者研修会

#### 5 職員の状況について

職員1名雇用 平成31年4月1日採用

#### 6 役員の状況について

(1) 役員（理事・監事） 定数：理事3名以上15名以内、監事2名以内（定款第20条）

R2.3.31 現在

職	氏名	備考
理事長	稲本 隆壽	
副理事長	小野 尚久	
副理事長	横田 光敏	
専務理事	大森 希世	
理事	下野 安彦	
理事	一柳 清志	
理事	山村美佐子	
理事	大野 千景	
理事	池田 央	
理事	藤崎 靖博	
理事	城戸 英	
監事	中塚 浩二	
監事	永見 雅之	

(2) 評議員 定数：3名以上25名以内（定款第9条）

R2.3.31 現在

山岡 晋	内子町教育委員会教育長
山内 大輔	元地域おこし協力隊
小泉 明子	内子町図書情報館長
山崎 文弘	五十崎郵便局長
篠原 裕明	伊予銀行内子支店長
近藤 誠	愛媛銀行内子支店長
中井 一浩	愛媛県立内子高等学校長
石崎 一水	愛媛県立小田高等学校長
片岡 俊二	内子町立内子中学校長
松森 祥裕	内子町 PTA 連合会会長
城戸 博子	青少年海外派遣 OB 保護者
山本 勝美	内子手しごとの会会長
宮岡 淑子	内子婦人会長
山口 佳一	(株)内子フレッシュパークからり部長
城戸 彰	元内子町教育委員
武田 隆幸	内子町国際交流協会設立準備プロジェクトメンバー

平成 31 年度附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書を作成しない。